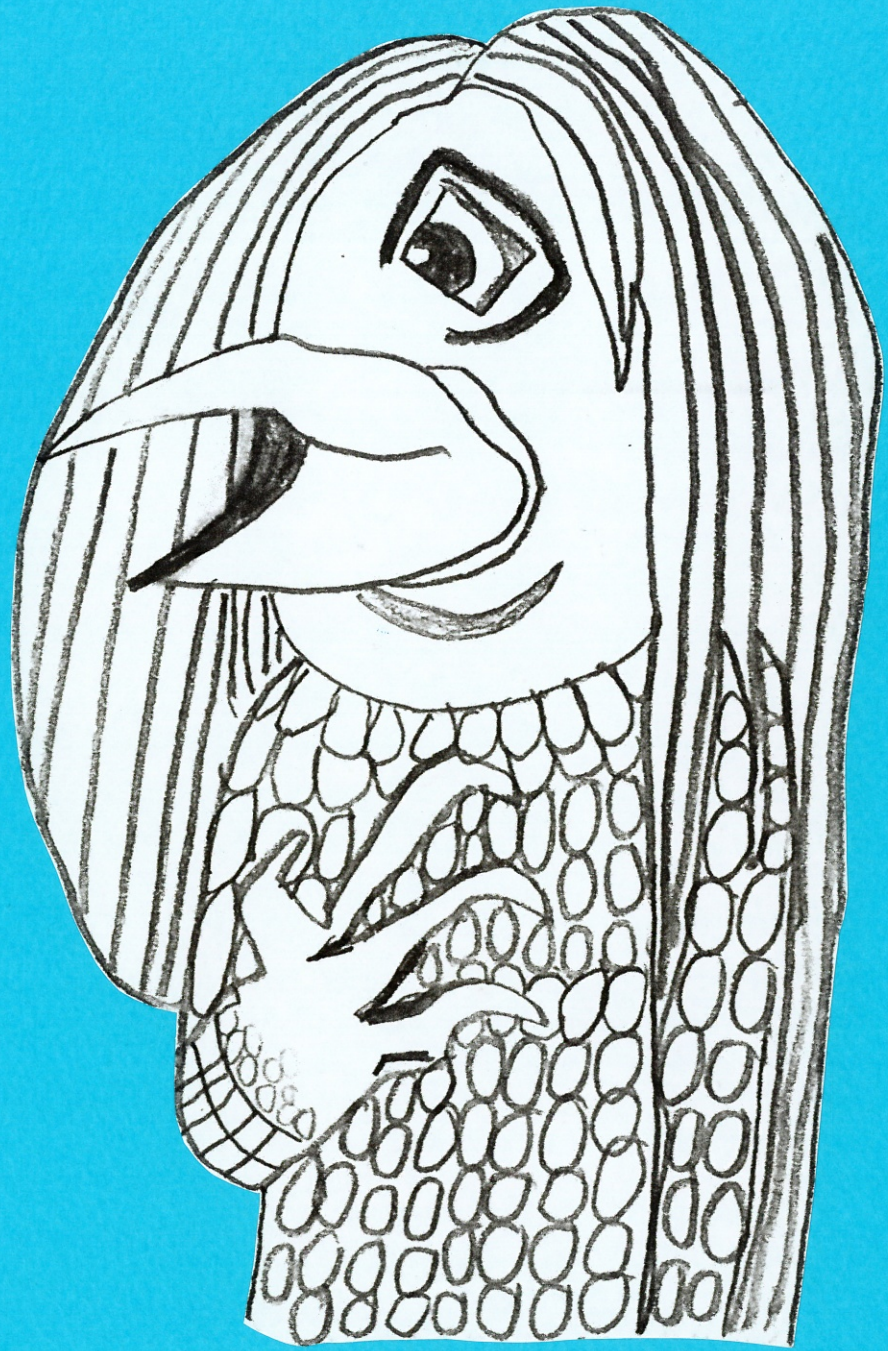


疫病退散



終息を
祈り
続けて

豊島区立豊成小学校
5年1組長 崎大嘉

目 次

	内 容	ページ
	きっかけ、調べ方	1・2
壺ノ巻	「疫病」について 「疫病」とは何か？ 疫病＝鬼！？	3～5
式ノ巻	「節分」、「御霊会」 「祇園祭」の始まり、 ご祭神「スサノオ」（牛頭天王）	6～11
参ノ巻	神話の中の疫病 桃、オオクニヌシ、スクナヒコナ、 ソミンショウライ、オオモノヌシ	12～21
肆ノ巻	疫病をきっかけに作られたもの 釈迦三尊像、大仏、平家納経、 からす団扇	22～27
伍ノ巻	「元三大師」 「元三大師」とは？ 元三大師の伝説	28～31
陸ノ巻	「辟邪絵」 「辟邪絵」とは？、鍾馗、 「赤」は魔除けの色	32～37
漆ノ巻	「予言獣」 件、神社姫、アマビコ、アマビエ、 ヨゲンノトリ	38～42
捌ノ巻	江戸時代の変化 祈りから医学へ、花火、緒方洪庵	43～47
	まとめ、感想	48～50

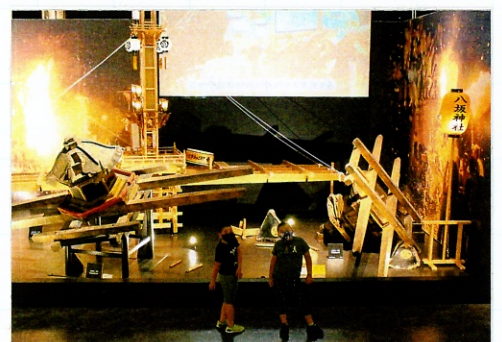
*参考資料

きっかけ

調べ方

きっ かけ

ぼくは幼いころから妖怪が大好きです。保育園の年少さんのときに、発表会で「からかおばけ」の役をやったから、と好きになりました。ぼくのお父さんも小さいころから妖怪が大好きだったそうので、妖怪の絵本や図かんをたくさん買ってくれて、いっしょに読んで話したりしてくれたので、妖怪にくわしくなりました。「アマビエ」も水木しげる先生の本を読んでいたのを知っていました。今年、新型コロナウイルスが流行し、学校がお休みになっ、てしまいました。そのようなか中でアマビエが人気になり、休校中に疫病を予言し追いかける妖怪を調べるようになりしました。すると、妖怪以外にも、昔から日本のいたる所でいろいろなものが疫病と関係があるということが分かってきました。そのため、疫病と疫病退散について調べてまとめたいと思い、テーマに選びました。



「国立歴史民俗博物館」(千葉県佐倉市)

調べ方

「疫病」について、次のことを中心に調べます。

- ① 「疫病」とは何か。
- ② 疫病をしおめるために行ってきた行事について。
- ③ 『古事記』や『日本書紀』に記されている、疫病に関するお話について。
- ④ 「奈良の大仏」など、疫病がまっかけになっ作られたものについて。
- ⑤ 疫神病除の護符に描かれている「元三大師」について。
- ⑥ 悪い鬼を退治する、こわい顔をした神を描いた「辟邪絵」について。
- ⑦ 「アマビエ」など、疫病を予言する妖怪について。
- ⑧ 江戸時代の疫病とたたかい方について。
また、たたかい方の変化について。

①～⑧の内容について、図書館の本や自宅にある本を使って調べる。本で分からないことはインターネットを使って調べる。さらに、博物館、資料館、神社、お寺など、実際に行き、て自分の目で見て確かめ、理解を深める。

壺ノ巻

「疫病」について

「疫病」とは何か？

疫病＝鬼！？

疫病

「疫病」とは何か？

「疫病」は、「えきびょう」「えやみ「流行病」やくびょう」と読み、江戸時代では「流行病」ともいいました。限定した地域で発生した感染症（伝染病）が、新たな地で大流行したときを疫病といいます。感染症の原因や治りょう法が分かっていなかった昔の人々にとって、疫病は大変おそろしいものでした。

〔日本の歴史に大きな影響を与えた感染症〕

○ 3世紀末 疫病（感染症名は不明）

疫病にかかると多く、国民の半分以上に及ぶ人が亡くなった。

→ 崇神天皇は大物主神をまつりした。政治の「政」の字を「まつりごと」と読むように、政治と祭祀は深く結びついていた。

○ 6世紀 瘡（天然痘）

仏教伝来の時期に、瘡を病んだ人が「身体を焼かれ、打たれ砕かれるように苦しい」と泣きさけびながら死んでいった。

→ 祖霊信仰とともに、仏教が厚く信仰された。

○ 737年 裳瘡（天然痘）

遣唐使渡来の時期に、裳瘡が流行し、この年だけで公ぎょうの半数以上が亡くなり、全国で数十万人が亡くなった。

→ 聖武天皇が鎮護国家への願いをこめて、東大寺や大仏を建立した。

○ 863年 咳逆(インフルエンザ)

8世紀に、感染症の流行を初めとする天変地異が相次いだ。それまで、たたりをなすのは神だけと考えていたが、恨みを残して死んだ者も怨霊となりたたりをなすと考えるようになった。そのため慰霊をしたが、863年に咳逆が流行した。

→ 神泉苑で「御霊会」を実施した。これが「祇園祭」の起源となる。

○ 1181年 瘧(マラリア)

平清盛が日宋貿易を始めた時代に、都で感染症が流行し、清盛も「頭風」(頭痛やめまいをとまなう病)を発症し、それからわずか一週間で亡くなった。

→ 源氏が力を持ち、平清盛が率いた平氏は滅亡していった。

○ 1302年・1391年 天然痘

元寇(蒙古襲来)の時期に、天然痘が流行し、社会不安を招いた。倒幕運動の中心にいた後醍醐天皇は、天然痘鎮圧のため「百万遍」(百万回の念仏を唱えること)を行った。

→ 鎌倉幕府を倒した。(その後、南北朝時代に突入する。)

★ 疫病によって、考え方や社会が大きく変化していったことがよく分かります。

疫病は鬼!?

本来目に見えない疫癘を、「鬼」という姿で目に見える形にした絵が、12世紀ごろから登場します。13世紀の初め、室町時代に成立した「融通念仏縁起絵巻」には、かつて天然痘が流行したときの場面が描かれています。



大勢の鬼達が屋しきの門の前まで押しかけている。しかし、鬼達は中に入らないで、屋しきの主人に巻物を見せられている。

実は、大勢の鬼達は疫癘を表したものです。屋しきの中ではたくさんの人達が念仏を唱えており、巻物には仏事に参加している人の名前が記されています。そのため、鬼が来る場所ではないので、退散させられるという話になっています。疫癘が押し寄せてきても、念仏を唱えれば押し戻すことができるという、信仰の大切さを描いた内容なのです。

式ノ巻

「節分」

「御霊会」

「祇園祭」の始まり

ご祭神「スサノオ」(牛頭天王)

節分

春、夏、秋、冬と変わっていく季節の始まりの日を、それぞれ立春、立夏、立秋、立冬と言います。そして、その前日を「季節が変わる節目」という意味で「節分」と言います。

① 節分とはもともと何 ?

昔は、一年の始まりが1月1日ではなく、立春の日でした。そのため、立春の前日である節分は大晦日にあたり、お寺や神社で豆や米をまいて、悪い病気や魔物を追い払う儀式を行いました。その儀式を「追儺」と言います。

※ 追儺は、古代中国で行われていた大晦日の行事が奈良時代に日本に伝わり、宮中の行事である「追儺」になりました。現在のような豆まきの風習は、室町時代以降に始まり、江戸時代に一般の人達にも広まりました。



桃の弓と
菴の矢で
追い払う。

赤い面をかぶっているのは人の何倍も眼力があるという方相氏。俵子という小童を連れて、鬼を追い払う役割をしている。

② 豆をまくのはなぜ？

大豆にこく物の霊が宿っていて悪霊を寄せつけないという説や、鬼の目を打つ「魔目」、魔物をやっつける「魔滅」からきているといふ説などがあります。豆まきが終わったら、1年間の無病息災を祈って、自分の教える年の豆を食べます。

③ ヒイラギとイワシをさすのはなぜ？

ヒイラギの小枝に、焼いたイワシの頭をさしたものを「やいかかし」と言い、家ののま下や門などにつるします。ヒイラギのとげとイワシのにおいが鬼を追い払うと言われています。



「北野天満宮」(京都府)の節分祭では、現在でも「鬼やらい」(追儺式)の儀式が行われています。

「稲荷鬼王神社」(新宿区)の節分追儺式では、「福は内、鬼は内」とかけ声をかけます。鬼の王様という意味の名前を持っていることと、鬼二神様とされているからです。

★ 昔の人々は、おむわいをもたらす存在を、鬼のような恐ろしい姿をしていると想像して、鬼を追い払う儀式を行っていたことが分かりました。

御霊会

平安時代、いろいろな疫病が流行ったときに、庶民の間で「御霊」が原因ではないかという考えが広まりました。御霊とは、貴族など身分や位の高い人で、政治上の争いに敗れたり無実の罪を着せられたりして、うらみを抱いて亡くなった方の怨霊のことです。疫病の流行は御霊のたたりとして、民間で御霊会が行われるようになりました。

その後、全国各地で疫病の流行が続いたため、貞観5年(863年)朝廷は「神泉苑」で初めて御霊会を開きました。みこしに御霊を迎えて、疫神や死者の怨霊をしおめ、なだめるために盛大に祭礼を行ったのです。お供え物の他、僧侶がお経を読み、音楽、踊り、演劇、すもう、競馬など、あらゆる芸がひろがりました。普段、一般庶民は入ることができない神泉苑ですが、この日に限り自由に入ることができたとされています。



☆弘法大師が雨を祈った場所でもあります。(空海)

京都の夏は疫病が多発し、洛中洛外の各地でも御霊会が行われるようになります。貞観11年(869年)には、長さ2丈(約6m)の鉾を、当時の国の数と同じ66本立て、祇園社(現在の八坂神社)では御霊をみこしに迎えて神泉苑に送り、疫病退散を願いました。→この御霊会が「祇園祭」の始まりだといわれています。当時は疫病が流行したときだけ行われましたが、その後年中行事になりました。明治時代までは「祇園御霊会」とよばれました。

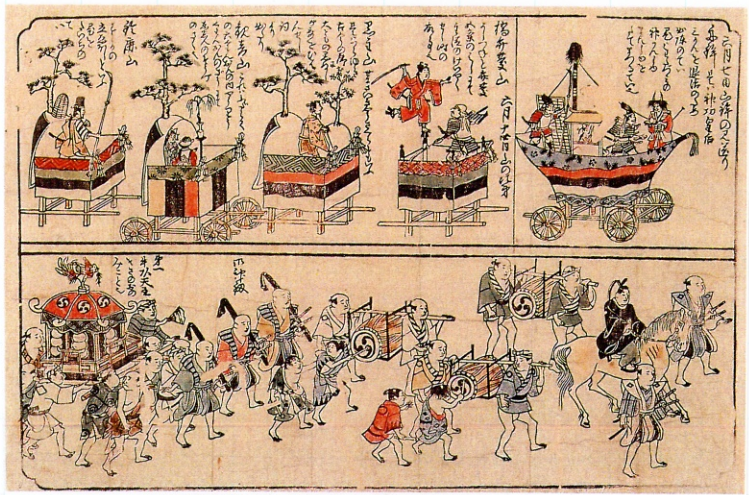
〔京都の夏について〕
盆地特有の高温多湿の気候になります。そのため、梅雨時かから夏にかけて、むし暑くし、細菌がはんしよるなど、様々な理由で病気が蔓延しました。



朱塗りの西門

現在の「祇園祭」は、京都の八坂神社を中心に、7月1日から31日までの1か月間に渡って、様々な神事や行事が行われます。

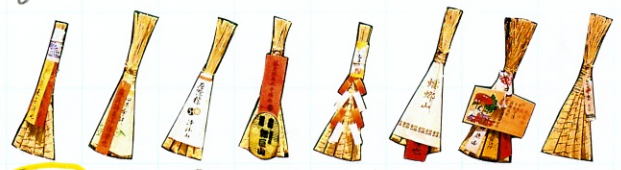
祇園祭に出る山車は「山鉾」と呼ばれます。真木と、真木に松の木を用いる「山鉾」が、真木と、真木に松の木を用いる「山鉾」と呼ばれます。祇園祭は、稚児がしめ縄を切る。と、このころから開始されます。稚児が乗る鉾は「長刀鉾」といい、山鉾巡行の先頭を進みます。長刀鉾は地上からは一本のくさも使われていません。他にいろいろな山鉾があり、人形や色あざやかな織物で飾られ、日本や中国の神話や昔話にちなんだものもあります。



山鉾の結び目を、その形から **エビ** と呼ぶ。祭りの後、切り取られたエビは、災い除けとして家の戸口に下げられる。



名物の **粽** (ちまき) は食べ物ではなく、笹の葉で作られた 疫病・災難除けのお守り。1年間、玄関先に飾られる。歌川広重の浮世絵にも、年中行事の一つとして祇園祭が描かれている。



祭神「スサノオ」（牛頭天王）



八坂神社は、もともと「祇園社」と呼ばれ、全国にあるスサノオをまつる神社の総本社です。スサノオは日本の神話に登場する荒振神で、英雄と悪神の二面を持つ神様です。

神話「イザナギの子で天照大神の弟。数々の乱暴を行って、高天原から追放され、出雲国（現在の島根県）に下り、八岐大蛇を退治してクシダナヒメを助けた。

祇園祭の起源は、疫病神・牛頭天王をまつる御霊会で、怨霊を神としてまつり上げることにより、御霊に転換し、おむくいを除き福をもたらします。

牛頭天王は、もともとインドの祇園精舎の守護神で、仏教に由来する神様です。それが日本に伝来しスサノオと習合しました。名前の通り、角のある牛の頭を持ち、夜叉のような体をした、最恐の疫病神です。そのため、怒ると疫病をもたらしますが、正しくまつれば疫病をはらう、てくれる防疫神となります。

↓ スサノオ



「スサ」とは
（ ・荒れ
・荒々しい
・荒風
・暴風

参ノ巻

神話の中の疫病

桃は鬼を追い払う！？

うさぎを助けたやさしい神様

「一寸法師」にはモデルがいた！？

疫病神？守護神？

日本最古のパンデミック

桃は鬼を追い払う？



『古事記』の「ヨモツヒラサカ（黄泉比良坂）」というお話の中に、桃が登場します。

国生みの神・イザナギは、亡くなつたイザナミを追つて、死者の世界・黄泉の国を訪れる。イザナミは、いよいよ帰れるよう黄泉の国の神に相談する間、自分の姿を決して見ないでほしいと言ひ残す。イザナギは待ちきれぬ、くしの歯に火を灯して御殿の奥に進み、イザナミのみにくい姿を見てしまふ。怒つたイザナミは、醜鬼女を使つてイザナギを追いかけて、さらに雷神と鬼の軍勢も追いかける。イザナギはヨモツヒラサカをかけ上がり、そこに生えていた桃の実を投げつけて追い払う。その後、二人は別れ、イザナミは死をつかさどる黄泉津大神となつた。イザナギは身を清め、三貴士（アマテラス・ツキヨミ・スサノオ）なごが生まれた。

★日本ではこのお話をきくたびに、桃には鬼を追い払う力があると考へるようになった。桃ニ鬼退治といふことから、昔話の桃太郎が、なせ桃から生まれたのか、なせ鬼を退治することができたのか、といふことも分かりました。



古来、中国また陰陽道でも、桃は魔除け・厄除けの果実と言われています。

陰陽道を使って国を支えていたのが陰陽師。平安時代に陰陽師として活やくした安倍晴明をおまつりしている「晴明神社」(京都府)に行、てきました。

晴明神社には、魔除けの呪符^{じゆふ}、五芒星^{ごぼうせい}が至る所に描かれています。境内には「厄除桃」もありました。そして、晴明が念力によって湧き出させた「晴明井」もありました。取水口は毎年立春にその年の恵方に向けられ、この水を飲むと難病が治ると言われています。当時は、人々の病気を治すために祭儀も行っていたそうです。



本殿



晴明公像



厄除桃



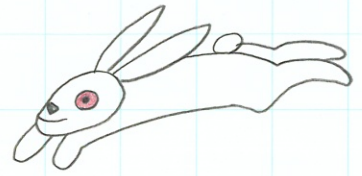
晴明井



神式

★平安時代は科学も医りようも発達していませんでした。そのため、呪術^{じゆじゆつ}によって災いを予見し、病魔^{びやくま}を退散させてくれる陰陽師は、人々にとってなくてはならない存在だ、ただの
だと思いました。

うさぎを助けたやさしい神様



健康の神様としても親しまれている大国主(オオクニヌシ)は、『古事記』ではオオナムジという名前が登場します。オオナムジは「因幡の白兔」を助けたやさしい神様です。

因幡(現在の鳥取県)のハ上姫に求婚しようとする兄・八十神達のお供のため、オオナムジは因幡を訪れる。そこにはだかの兔が倒れていたのので、オオナムジが理由を聞く。隠岐の島からここに渡ろうと思い、ワニ(サメ)をだまして背中をふんで渡ってきた。しかし、だまされたことを知ったワニが怒って、皮をはがされてしまった。さらに八十神の教えの通りにしたら、体中傷ついてしまったと言う。オオナムジは、真水で体を洗い、蒲の穂をしいてその上を転がるよう、正しい治りよう法を教える。兔の体は元通りになり、八十神はやさしいオオナムジと結婚すると予言した。



★オオナムジに助けられ結婚を予言した白兔ですが、白兔神として皮膚病・傷病を治してくれる神様でもあります。

大黒さまと
白うさぎ

八坂神社にある「大国主社」縁結びとしても有名です。

「神田祭」でも有名な、江戸総鎮守「神田明神」(千代田区)に行、てきました。

〔ご祭神〕

①オオナムチ(オオナムジ)・・・七福神の一柱・大黒天でもある。小づちと福袋を持、て米俵こめたわらに乗、ている。大黒天の使いはねかみ。

②スクナヒコナ・・・オオナムチと仲が良いので、医りょう・医薬・健康の神様としてい、しょにまつられることも多い。

③平将門・・・日本三大怨霊の一人。神田明神の近くには、将門の切られた首が体を探して戻、てきたとされる「将門塚」がある。



また、「日光ニ荒山神社」(栃木県)もオオナムチをおまつりしています。神楽殿の中に、金色に光る大きな大黒様がいました。



金色の大黒様

と

銀色のねかみ

日光ニ荒山神社

「一寸法師」にはモデルがいた？



体が一寸(約3cm)しかない小さな男の子が、都に出て鬼を退治するお話といえは『一寸法師』です。一寸法師の原型は、日本最小の神様・スクナヒコナだと言われています。

『古事記』には、白兔を助けたオオクニヌシとスクナヒコナが出会い、二人で全国を旅しながら、人々に医りょうや健康の知恵を授けたお話が記されています。

- 農民に害獣や害虫を防ぐ方法を教え、人間や家畜の病気を治す方法を定めた。
- 「酒は百薬の長」と言われるように、酒(アルコール)の消毒力や生命力を重要視した。
- 温泉には病いやけがを治す効果があるということを広め、体に良い温泉の入りを教えた。そして、数々の温泉を開いた。



★伊予国(現在の愛媛県)を訪れたとき、『伊予国風土記』逸文によると、スクナヒコナが病気になり、オオクニヌシが別府(大分県)の湯で温めたところ、たちまち元気になり石の上でおど、たという。→これが道後温泉の始まりとされています。

↑
スクナ
ヒコナ
↑
オオク
ニヌシ

オオナムジとスクナヒコナ
という医薬祖神の二柱をおま
つりしていることで有名な、
「五條天神社」(台東区)に
行ってきました。毎月10日に
「医薬祭」が行われています。



「上野公園」内

スクナヒコナをおまつりしている「布多天神」(調布市)に行ってきました。

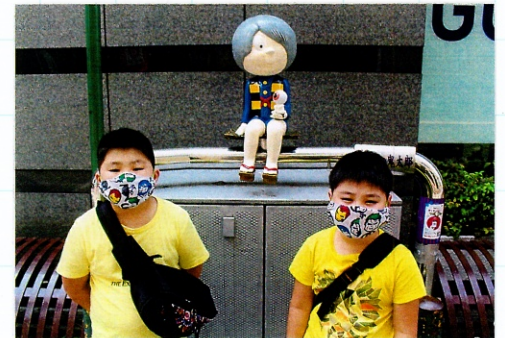
スクナヒコナは酒造・温泉・医薬の神なので虫封じ・病気平ゆ・健康祈願の神事が行われています。また、オオクニヌシが大黒様と言われているように、スクナヒコナは恵比寿様と言われています。



「布多天神社」本殿



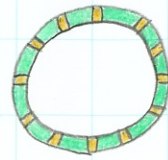
御神牛



天神通り商店街

また、五條天神社、布田天神とともに、学問の神様・菅原道真をおまつりしています。道真は日本三大怨霊の一人でもあります。天神様の神社と言えど梅の花と牛ですが、道真が左せんさるるときに梅の花を歌に詠み、亡くなったときに牛車で運ばれたのが由来です。

疫病神？ 守護神？



ヤマタノオホスサノオを退治した英雄・スサノオですが、
病気を流行らせる疫病神のリーダー・荒振神
でもあります。『古事記』ではムトウノカミ
という名前で登場します。スサノオは良い神
様？ それとも、こわい神様？

ムトウノカミが備後国（現在の広島県）へ
来て泊まる所を探していた。ソミンショウライ
・コタンショウライという二人の兄弟がい
て、まあお金持ちのコタンショウライの家を
訪ねたが断られる。次に貧乏なソミンショウ
ライの家を訪ねたら、こころよく中に入れ
てもらってなしてくれた。

数年後、ムトウノカミは8人の子どもを連
れてこの地を通りかかった。ソミンショウラ
イに「ちがやの輪を結んでこしに付けるよ
うに言う。次の日の朝、村の者達は全員死ん
でしまったが、ソミンショウライの家族だけ
は無事だった。ムトウノカミは「私は荒振神
である。悪い病気が流行ったら、ちがやの輪
を結びなさい。」と言って立ち去った。

★ スサノオは疫病を流行らせるこわい神様で
すが、きちんとお祀りすれば疫病から守って
くれる良い神様でもあるのです。

スサノオがソミンショウライに、疫病が流行、たときにかがやの輪を付けるように教えました。現在も神事として行われています。6月と12月の晦日(30日)に、半年間の罪とけがれをはらい清めることを「大はらえ」と言い、特に6月は「夏越のはらえ」「茅の輪くぐり」という名前で行われています。

「八坂神社」(京都府)では、「祇園祭」が行われる夏に茅の輪を設けています。しかし、今年は新型コロナウイルス流行のため、疫病退散・無病息災を願って、春から臨時に設けられました。コレラが流行したとき以来、143年ぶりのことだそうです。



本殿



疫神社



護守病疫

また、「蘇民将来」と書かれた札やしめ縄をかかげたり、小さな茅の輪をお守りにしたりすることもあります。



二荒山神社



日本最古のパンデミック



『古事記』と『日本書紀』のお話の中に、日本で最も古いパンデミック（感染爆発）の記録が残されています。

第10代崇神天皇の時代、国中に疫病が大流行し、多くの人々が感染して死に絶えてしまった。この事態を心配した天皇は、神床（神のお告げを受けるための寢室）で横になり、神託（神のお告げ）を仰いだ。すると、枕元に大物主大神が現れて、「この疫病の流行は、私の崇りである。オオタタネコ（大物主大神の子孫）を探し出し、その者に私を祭神に祀れば、疫病は治まるだろう」と告げた。天皇はオオタタネコを見つけ出して大物主大神を祀らせたところ、お告げの通り疫病は治まった。

その後、大物主大神をご祭神とした大神神社が作られた。日本最古の神社である。

★「大神神社」（奈良県）では4月に鎮花祭が行われています。古来、春に花びらが散るときに疫神が分散して流行病を起すと言われ、疫神をしおめるために、平安時代から行われてきた疫病除けの祭祀です。「薬まつり」とも呼ばれ、近隣の医薬関係者が多数参列します。

オオモノノヲシをおまつりしている神社として有名な、「安井金比羅宮」(京都府)に行きました。

主祭神は日本三大怨霊の一人、崇徳天皇です。「縁切り縁結びの碑」もあります。



鳥居

本殿

縁切り縁結びの碑

オオモノノヲシは疫病を治めるだけでなく、道開きの神様でもあるため、海上安全、交通安全のご利益もあるそうです。神様一人にいくつものご利益があることにおどろきました。

★日本書紀成立1300年 特別展『出雲と大和』
『日本書紀』には、古代祭祀の源流・出雲(島根県)と王権たんの地の地・大和(奈良県)が、重要な役割を果たしていたことが記されています。



銅鐸が出土したところを復元



埴輪見返りの鹿

肆ノ巻

疫病をきっかけに
作られたもの

法隆寺の「釈迦三尊像」

東大寺の「大仏」

嚴島神社の「平家納経」

大国魂神社の「からす団扇」

法隆寺の「釈迦三尊像」



「法隆寺」(奈良県)は、聖徳太子が7世紀初めに建てた寺院です。その本堂が金堂で、その中央の「中の間」に安置されているのが「釈迦三尊像」です。

釈迦三尊像の光背(仏像の背後にある飾り。仏が身体から発する光を造形化したもの)の銘文には、次のように記されています。

621年に太子の母が亡くなり、622年には太子と太子の妻も病気になるため、病気が治ることを祈願したが、2人とも亡くなってしまったため、冥福を祈って仏師・鞍作止利に造らせた。

そして、夫妻が1日違いで亡くなったことから、この病は疫病だ、と*いわれています。*

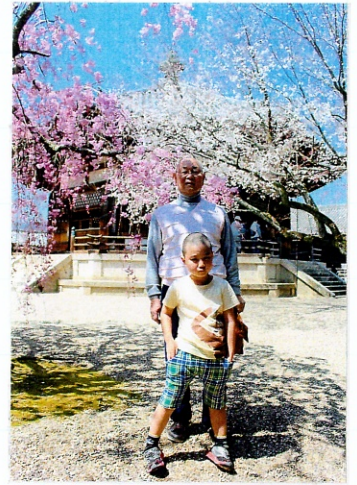


★中尊は釈迦如来坐像。中国北魏の影きよ杏仁を受け、面長の顔、杏仁形(アーモンド形)の目と鼻、アルカイックスマイルと呼ばれる、がすかな笑顔を浮かべた威厳のある顔立ちをしている。お顔は聖徳太子の似姿といわれている。



「聖徳太子」について
飛鳥時代に政治家として活躍した。
「十七條の憲法」や「冠位十二階」
を定め、中国に「遣隋使」を送った。
隋の皇帝に送った「日出づる処の天子」という書き出しの手紙が有名。

世界最古の木造建築
である「法隆寺」を歩
いたら、大きくて広く
て歴史を感じることが
たくさんありました。
左：五重塔の前
右：夢殿の前



また、釈迦三尊像は、制作年と作者名が判
明している日本最古の仏像で、飛鳥時代の仏
像の最高傑作です。鞍作止利も日本最初の
仏師といわれています。仏師とは、仏像を彫
刻する人のことです。

ほくは去年とよしとし、「東大仏青展」(東京大学仏教青年会展覧会)に行き、仏像彫刻を見たり、仏画を描いたりしました。



仏像彫刻

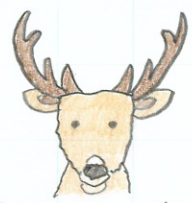


仏画



東京大学赤門

東大寺の「大仏」



「奈良の大仏」の正式名称は「^る盧^{しや}舎^な那^{ぶつ}仏^ぎ坐^き光^{くわう}像^{ざう}」です。「^る盧^{しや}舎^な那^{ぶつ}仏^ぎ坐^き光^{くわう}像^{ざう}」とは「太陽のごとき光の仏」という意味で、宇宙のすべてを照らす大仏として造られました。

奈良時代は、政変・かんばつ・ききん・凶作・大地震が相次いで起こり、政治的な混乱が続きました。さらに天然痘の大流行によって、当時の人口の4分の1以上が命を落としました。そのため、聖武天皇が国家プロジェクトとして、民衆とともに造り上げたのが巨大な大仏です。像の高さは約15mで、現存する金銅仏としては世界最大級です。

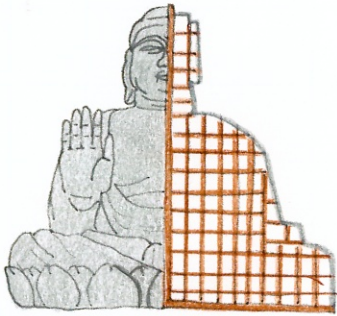
大仏の完成まで、10年の年月がかかり、国民の約半分にあたる延べ260万人が協力しました。



☆大仏の目は「半眼」といい、半分は世の中を、もう半分は自分を見つめる。髪は「螺髪」といって、右の手は「白毫」といって、正面に白毫を向けておろす。左手は苦しみを救うという意味。

大仏はどのように造られたのか？

① 原型をつくる



② 外型をつくる



③ 外型を外す



④ 銅を流しこむ



⑤ どんどん上へ



⑥ 金メッキをする



⑦ 開眼供養...大仏に魂を入れるために大仏の目に瞳を描きこむ儀式。 → 完成！！

「東大寺」(奈良県)の大仏が大きいことは知っていたのですが、実際に見てみたら、本当に大きくておどろきました。



大仏の手



鹿さん



鼻の穴くぐり

嚴島神社の「平家納経」

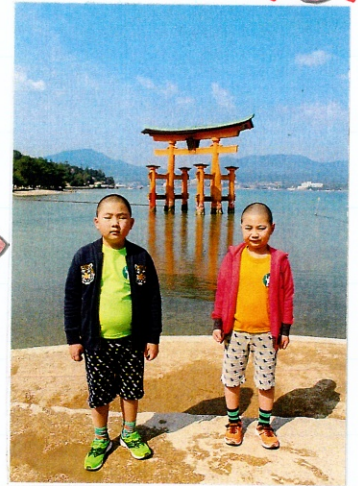
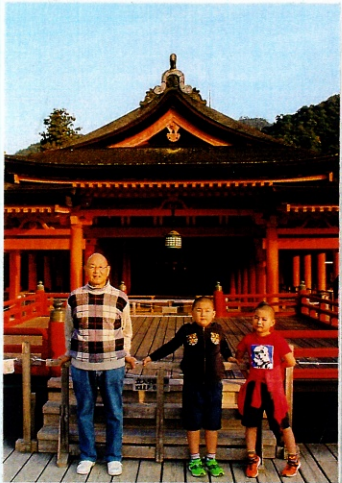


「嚴島神社」(広島県)は、「安芸の宮島」といわれる、日本三景の一つとして有名な所にあります。

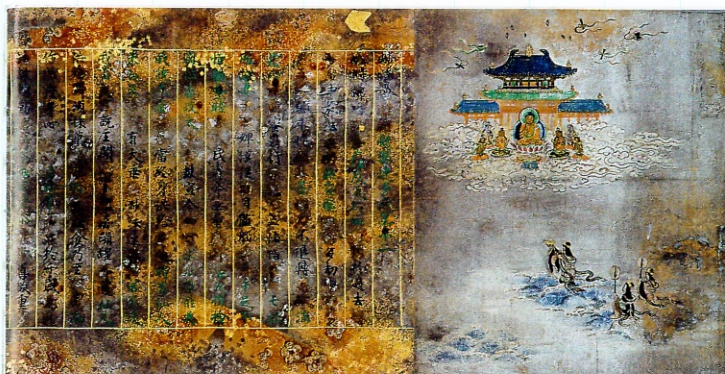
夕

夜

朝



平安時代末期に、平清盛が平氏一門のはん栄を祈願して、嚴島神社に納めたのが「平家納経」です。当時は疫病の流行、災害のひん発、戦乱などが集中して起こったため、清盛は一門を挙げて法華経の書写(写経)に取り組みました。37巻の経巻は金銀の装飾がほとんどされ、とてもぶうかに作られました。これは、平家がはん栄していたことを表すとともに、不安や恐怖も大きかったのではないかとされています。



平家納経



平家納経箱



大國魂神社の「からす団扇」

「大國魂神社」(府中市)では、毎年7月20日に「すもも祭」が行われ、五穀豊穡・悪疫防除・厄除の信仰を持つ「からす団扇」と「からす扇子」が頒布されます。平安時代初期に成立した『古語拾遺』の神話に、鳥の団扇であおぐと害虫が駆除されて病気が治ると記されていることが起源になっています。

今年も例年通りの「すもも祭」は行われなかったのですが、疫病退散を願って多くの人達がからす団扇を手にしながらからす参りをしました。

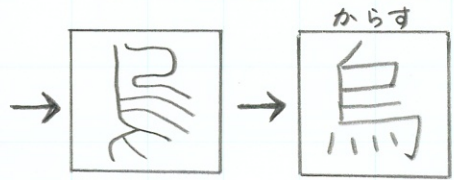
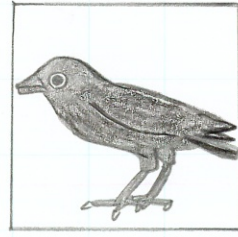
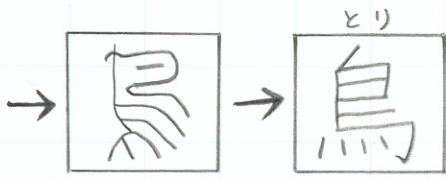
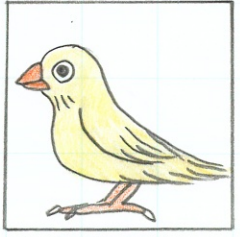


疫病退散



「カラス」について
カラスは山の神様の使いです。神武天皇をい
道案内したカラスはろ本足で「ハ咫鳥」と意味
いします。(「ハ咫」は大まかく広いという意味
でろ本の足は天・地・人を表す。) 神武天皇をい
ボールをゴールに導くようにという願いを
込めて、日本サッカー協会のマークにもハ咫
鳥が用いられています。神武天皇をい
★漢字を書き分けよう。

目の部分が
一画少ないよ



伍ノ巻

「元三大師」

「元三大師」とは？

元三大師の伝説

元三大師

「元三大師」とは、良源（慈恵大師）の之生僧。平安時代は近江国（現在の滋賀県）に。比叡山延暦寺を展した。天台宗の元三。正月三日に入滅（死）した。角大師「鬼大。降魔大師」「豆（魔滅）大師」なとも呼。はれる。世の中に疫病が流行すると、鬼の姿「角大師」となっ、て疫病神を退散させたとい。われ、疫神病除の護符として今も信仰されて



院多喜師大越川



越前川「喜崎行」にた。江戸「院」にた。小江多玉き



時の鐘

伝説① 角が生えて疫病退散の

疫病が流行していた984年の雨の夜、良源のもとに疫病神が現れた。良源は小指を差し出して体の中に入るように言い、疫病神を侵入させた。良源は高熱と激痛を発したが、法力を使って体内の疫病神を退散させる。良源は一刻も早く人々を疫病から救おうと、弟子達の前で坐禅を組む。すると、良源の頭から角が生え、やせこけた鬼の姿に変わっていく。弟子の一人がその姿を写し描くと、良源は、この鬼の姿の札を作って人々に配るよ
うに言った。その後、「角大師」の札を家に貼ると、疫病はもうろん一切の災厄が寄りつかなくなった。

伝説② 鬼の面・鬼に変身

良源は都からの信頼も厚く、宮中に招かれることも多かった。美男子だったため女官達にさわがれたいよう、あえて鬼の面をかぶっていた。このとききつねの面を「降魔面」という。また、女官達と酒をくみ交わしたとこきつね鬼の姿に変わったという。



元三大師坐像



角大師像



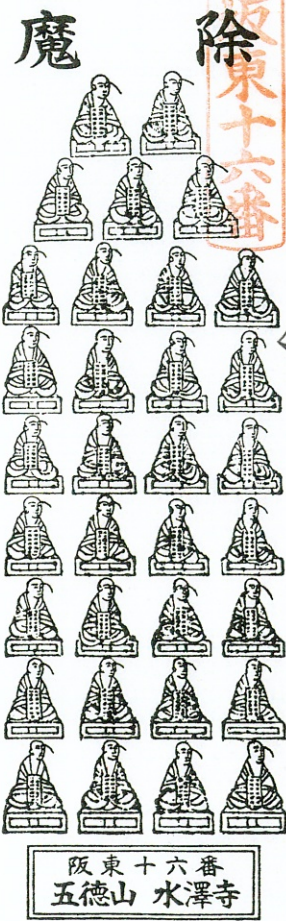
降魔大師像

伝説③ 魔を滅する30人の童子達

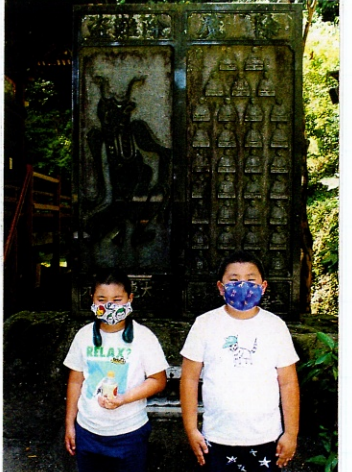
河内国（大阪府）の百姓がお参りに来たところ、突然豪雨になり、お堂に泊まることになった。田んぼのことが心配だがどうすることもできないでいると、お坊さんから「せっせいかくお参りに来ているのだからお祈りしなさい」と言われ、一心不乱に祈った。

翌朝急いで帰ると、周りは水浸しなのに自分の田んぼだけ無事だった。近所の人に聞くと、夜明け前に30人余りの童子が現れて水害から守ってくれたと言う。良源は観音様の化身と言われていたため、三十三化身と同じ30人の童子となって救ってくれたのである。

★その他にも、数多くの伝説が残っています。



い眉毛ない
ては眉に
びは角
の毛が
伸る毛
う。




「水澤観世音」（群馬県）に行、たがで、釈迦三尊像にお参りするところができました。境内には、角大師と魔滅大師が並んでいました。

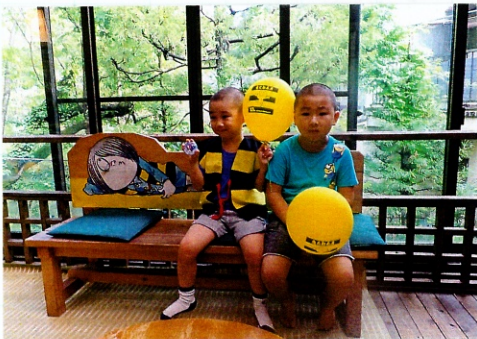
「深大寺」(調布市)には、江戸時代から人々の信仰を集めた元三大師像、「木造慈恵大師坐像」があります。坐像で約2mもあり、日本最大の大坐像です。秘仏のため普段は見られず、今年の春に特別開帳を予定されていましたが、延期されてしまいました。境内には、元三大師の小さな石像もありました。また、元三大師は「おみくじ」の元祖でもあります。深大寺のおみくじは「凶」が多いことで有名ですが、「凶」は「吉」に好転する力を秘めているのだそうです。



元三大師堂



黒のだるまさんが当たったよ。 



茶屋の2階は妖怪ギャラリーになっています。必見。



鬼太郎茶屋



 ゴジラ  アマビエ
らくやき絵付けをしたよ。

陸ノ巻

「辟邪絵」

「辟邪絵」とは？

鍾馗

「赤」は魔除けの色

辟邪絵

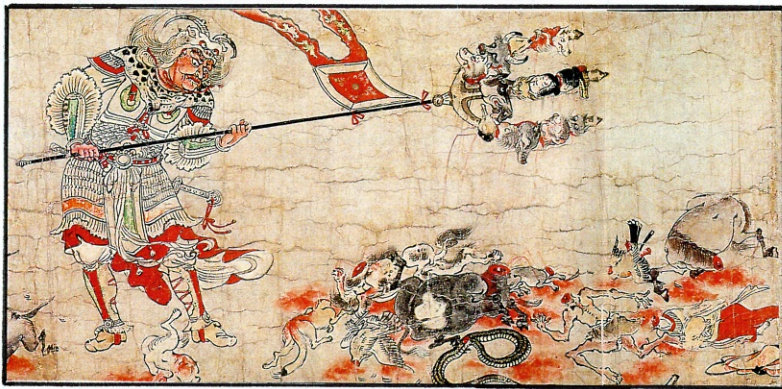
平安時代後期の12世紀に描かれた「辟邪絵」は、人に害をなす邪悪な鬼をこらしめて退散させる、さまざまな辟邪神を描いた絵画。辟邪神は中国の悪鬼はらいに由来する善神。辟邪絵はもともと1巻の絵巻だったが、現在はらっくに分かれている。



天刑星

(てんけいせい)

陰陽道の鬼神で、牛頭天王と疫鬼をつかまえ、酢につけて食んでいる。
→その後、牛頭天王は疫病除けの神となった。



梅檀乾闥婆

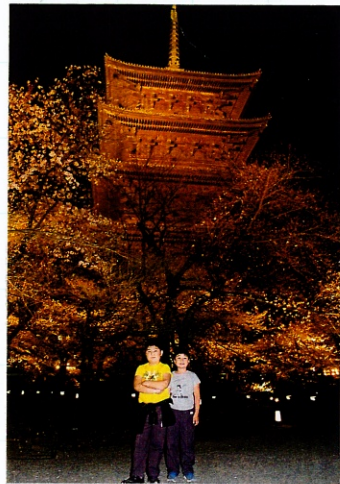
(せんだんけんたつば)

胎児や幼児の守護神で、赤子や子どもに害をなす鬼を大まきなげきでくしむしにしている。
→その後、密教修法の本尊となった。



★「東京国立博物館」の特別展を見て、密教のことを知りました。

「東寺」(京都府)の
夜桜ライトアップ。



源頼光と渡辺綱に
切られた土蜘蛛(鬼の一種)が神虫
と似ている。



神虫

(しんちゅう)

巨大な蚕がすべての足を
使って鬼をつかまえ、むさ
ぼり食っている。

金重燿

(しやうき)

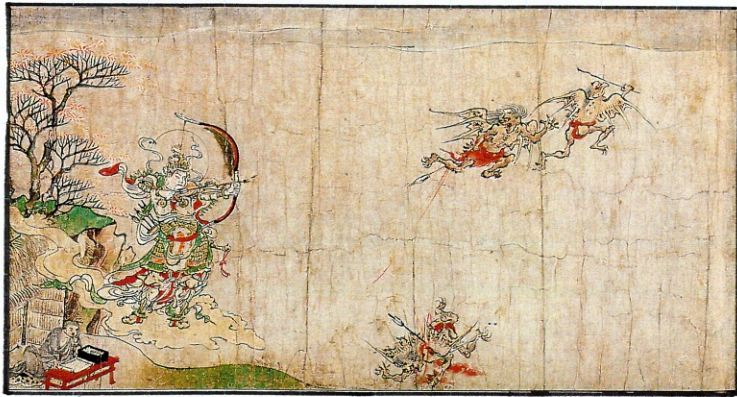
病をおこす鬼をつかまえて目玉
をくり抜き、身体をさしている。
→ その後、疱瘡除けや学問成就に
効果があり、子どもを守る神と
なった。



毘沙門天

(びしゃもんてん)

法華教の信者を悪鬼
から守る神として表さ
れ、若い僧を守るため
鬼を弓矢で退治してい
る。



→ その後、武将神として、上杉謙信などの戦
国武将から厚く信仰された。

< 毘沙門天にまつわる話 >
 牛若丸伝説で有名な源義経は、幼少期を「鞍馬寺」(京都府)で過ごし、鞍馬天狗を相手に武芸の練習をしたという。その鞍馬寺に安置されているのが、都の北方を守る毘沙門天。四天王の一人、多聞天の別名。四天王…忿怒の表情で邪鬼を踏みつけ、四方(東西南北)を守護する役割を持つ。東は持国天、西は広目天、南は增長天。「鞍馬寺」には、牛若丸が天狗と修行した「木の根道」が今も残っています。



本殿金堂
 ← 鞍馬駅前
 の大きな天狗
 木の根道

辞邪絵は、「奈良国立博物館」(奈良公園の中)に所蔵されています。



★ 疫病そのものを邪悪な鬼ととらえ、その鬼を退治する神々ですが、一見こわい怪物のようにも見えます。ほくは地獄のえんま大王を思い出しました。えんま大王もこわい顔をしています。本当は良い仏様なのです。

鍾馗しやうき

鍾馗は、中国の疫病除けの神様です。

中国の故事（昔の出来事）
唐の時代、玄宗皇帝がよこり（マラリア）をわすらて悪夢を見らる。その悪夢とは、宮廷に小鬼が現れていたおらをするので、臣下を呼ぼうとしたところ、大鬼が現れて小鬼をつかまえてぐり食わべて殺してしまった。玄宗が大鬼に正体をたずねると、大鬼は鍾馗という者で、かつて科挙（官吏になる試験）に落第したため自殺したが、そのとき手厚くほうむってくれたので、その恩を報いるためにやって来ました、と答えて消え去った。夢から覚めると、病気はすっかり治っていた。このことに感謝した玄宗は、有名な画家呉道玄に夢のことを伝え、鍾馗の姿を絵に描かせた。それ以来、この絵を疫病除けの守り神とした。



★ 中国では、5月が高温多湿で疫病の最も流行しやすい月だと考えられていた。そのため端午節に鍾馗を描いた黄色の紙を家に貼って、魔除けにする風習があったそうです。

鍾馗の故事が日本にも伝わり、5月5日に端午の節句ののほりに描いたり、五月人形に作ったり、魔除けの人形にしたりするようになりました。

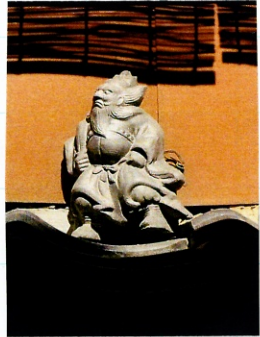
京都では瓦屋根に鍾馗が置かれています。

江戸時代末期、家屋を守る鬼瓦がはね返した鬼(病魔)を、鬼よりも強い鍾馗がさらにはね返し、住人の病気が良くなったためだそうです。

すみだ北斎美術館(墨田区)で開かれている「大江戸歳時記」という企画展を見に行きました。「朱書鍾馗図」は、流行病疱瘡除の願いを込めて朱で描かれています。(赤色は魔除けの色)

東京都美術館(台東区)で開かれている「日本三大浮世絵コレクション」の展覧会を見に行きました。浮世絵にも、魔除けのために鍾馗の旗をかかげている場面が描かれています。

★江戸時代に鍾馗様が人々に親しまれていたことがよく分かりました。



瓦屋根の鍾馗



すみだ北斎美術館



東京都美術館

「赤」は魔除けの色

痘瘡(天然痘)除けの鍾馗様が赤色で描かれたように、赤は魔除けの色といわれています。昔から、赤色にぬられた「赤物」とよばれる郷土玩具がたくさんあります。玩具なので子どもが遊ぶ物ですが、病気から守ってほしい、健康であってほしいという親の願いもこめられています。

* 会津の赤べこ*
(福島県)



* 浜松だるま*
(静岡県)



* はこたん人形*
(鳥取県)



* 鴻巣の練り物人形*
(埼玉県)



* 草津の猩猩*
(滋賀県)



* 八丈島の為朝*
(東京都)



★他にもたくさん郷土玩具があります。

漆ノ巻

「予言獣」

件

神社姫

アマビコ

アマビエ

ヨゲンノトリ

くだん
件

漢字の通り、「人」の顔と「牛」の体を持つ妖怪。



「件」について、天保7年（1836年）の丹後国（現在の京都府）で報道されたかわら版の中で次のように記されています。

天保7年の12月丹後国・倉橋山で人面牛身の怪物「件」が現れた。

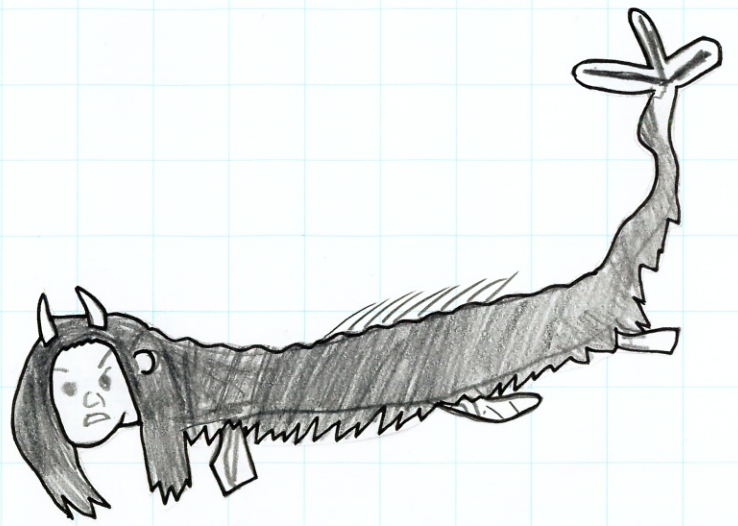
宝永2年（1705年）12月にも件が現れ、その後豊作が續いた。この件の絵を貼っておけば、家内毎文昌し疫病から逃れ、一切の災いを逃れて大豊作となる。じつにめでたい獣である。

★件は人間の顔をした子牛の姿で生まれます。災害や疫病などの予言を人間の言葉で残し、すぐに死んでしまいますが、その予言は必ず当たると言われていました。

★古くから証文などの最後に「よ、この件のこととし、（前記の通りである）という決まり文句を記すことがあります。件が真実を正直に話すことからきているという説もあります。

神社姫

アマビエと同じように、予言をする妖怪。

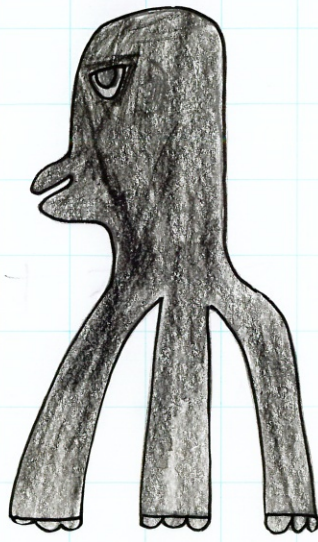


「神社姫」について、江戸時代後期に板橋宿で晩年を過ごした加藤史尾庵が、日記風の随筆『我衣』の中で次のように記しています。文政2年(1819年)4月18日、肥前国(現在の佐賀・長崎県)の浜辺に、全長2丈(約6m)の、二本角と人の顔を持つ魚のようなものが現れた。それを目撃した者に向かい「我は龍宮よりの使者・神社姫である。向こう7年は豊作だが、その後ニコロリ(コレラ)という病が流行る。しかし我の写し絵を見ればその難を逃れることができ、さらに長寿を得るだろう」と語ったという。(その年の夏には江戸で赤痢が大流行し)神社姫の写し絵を売り歩く者がいて、多くの家でかぶられ重宝された。

★ 医者であった史尾庵は、疫病で苦しむ人々や不安をいだいている人々を目の当たりにしていたのだと思います。

アマビコ

海中から現れて予言する。二本足で、猿のような姿をしている。



「アマビコ」について、福井県立図書館が所蔵している『越前国主記』の中で、次のように記されています。

(天保15年・1844年に)越前国(現在の新潟県)の蒲辺で海中から出てきた海彦が、「当辰年に日本人の7割が死ぬ。しかし私の姿を描いた絵図を見た者は死を逃れることができる」と言った。

★漢字では「海彦」「尼彦」「天彦」「阿磨比古」などと表記されます。

★「アマビエ」の起源は「アマビコ」だと言われています。アマビコの方が資料が古く、たくさん残っています。カタカナで書いたときに「コ」と「エ」の字が似ているため、間違えて表記されたものが流布されてしまったようです。

★名前が1字変わっただけで、姿・形まで全く別のものになってしまうことにおどろきました。

アマビエ



疫病を予言し、自分の姿を写すように言う妖怪。長い髪、鳥のくちばし、体に魚のウロコがある。

「アマビエ」について、京都大学付属図書館が所蔵している『新聞文庫・絵』の中で、次のように記されています。

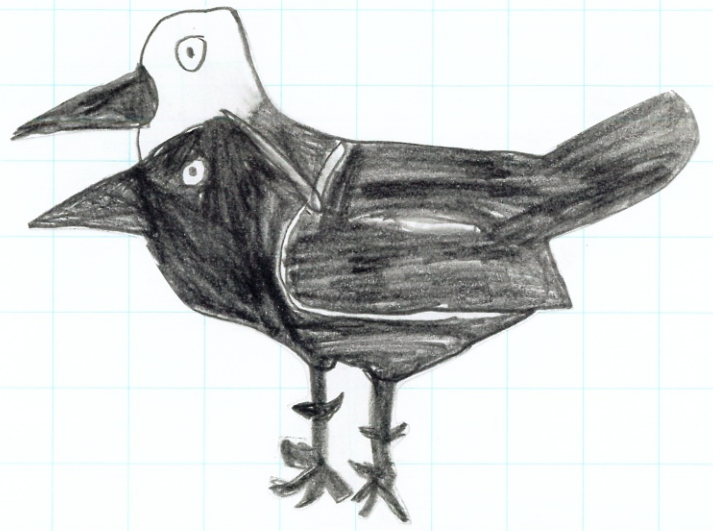
肥後国（現在の熊本県）の海中に、毎夜光るものが現れるというので、役人が見に行った。すると四つのようなものが現れた。「私は海中に住むアマビエというものである。今年から6年間は諸国で豊作となる。しかし、病も流行する。早々に私の姿を写して人々に見せなさい」と言って、海中へ入っていった。

★疫病を防いでくれる妖怪として有名になりましたが、姿を描き写すとどうなるかは、はっきりしていません。



「金太郎飴本店」（台東区）で、アマビエ飴を発見しました。予言獣の中でもアマビエは一番人気で、食品やご朱印状のスタンプなど、いろいろなところで見かけました。

ヨゲンノトリ



名前の通り、予言をする鳥。頭が2つある。

「ヨゲンノトリ」について、市川村(現在山梨県)の名主・喜左衛門が、『暴瀉病流行日記』の中で次のように記しています。四のよな鳥が、去年の12月に加賀国(現在の石川県)に現れて言うことには、「来年の8月、9月のころ、世の中の人々が9割方死ぬという難が起る。それについて、我々の姿を朝夕に仰ぎ、信心するものは必おその難を逃れることができるであろう。これは熊野七社大権現のすぐれた武徳をあらわす鳥であると言われている。今年の8月・9月に至り、多くの人々が死んだ。まさしく神の力、不思議なお告げである。

★出典は山梨県立博物館に所蔵されているもので、「ヨゲンノトリ」という名前も博物館の方が付けたそうです。

★疫病に苦しめられた甲斐国の人々が、救いを求めた結果現れた、不思議な鳥なのです。

捌ノ卷

江戸時代の変化

祈りから医学へ

花火

緒方洪庵

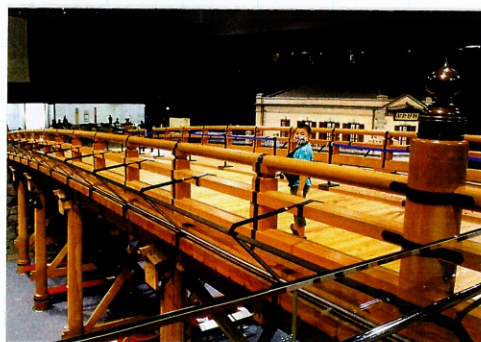
日本では疫病が流行したときに、信仰心が大切だと考えられてきました。江戸時代も、予言獣に代表されるように、迷信や俗説などが信じられてきました。

8代将軍・徳川吉宗は、隅田川の川開きに合わせて花火を打ち上げ、疫病退散を祈願しました。

しかし、いくら祈ってもいくら願っても、19世紀には天然痘が毎年のように流行します。天然痘の致死率は非常に高く、命を取り留めなかったとしても失明や痘痕などが後遺症として残るものが大きな問題となっていました。「独眼竜」伊達政宗も天然痘が理由で右目を失明。そこで、イギリスの外科医・ジェンナーが「牛痘」(天然痘の予防接種)を確立します。そして、緒方洪庵が痘苗(天然痘の予防に用いる接種材料)の普及に貢献し、「除痘館」を設立。天然痘の収束に力を入れたのです。

江戸時代は、祈りから医学へ、感染症とのたたかい方が変化する大きな転換点となりました。

江戸東京博物館の日本橋(実物大)



花火



江戸時代、享保7年(1732年)に、全国的なかんばつでコレラという疫病が流行し、数万人の死者が出ました。コレラで亡くなった方の鎮魂と慰霊、悪疫退散の願いをこめて、將軍・徳川吉宗は水神祭、両国川河はんの水茶屋は川施餓鬼を行いました。水神祭は、水をつかさどる神の祭。水難者の供養や、水難事故の防止を願う。川施餓鬼は、死者のため川辺や船中で行う施餓鬼。

翌年、享保8年(1733年)にも、亡くなった方への供養と悪疫退散のため花火を上げました。隅田川の川開きに合わせ打ち上げられるこの花火を「両国川通花火」といい、隅田川花火大会の始まりとなりました。

川開きの間は飲食店の夜間営業が認められたため経済的効果がありませんでした。現在は感染拡大防止のため飲食店の営業時間が短縮されました。同じ目的でも、江戸時代と今では方法が全く違います。



* なぜ日本人は「花火」という?

英語では「fireworks」(火の作品)といいますが、日本の花火は菊や牡丹のように夜空に花を咲かせるため「花火」といいます。

* なぜ花火を空に打ち上げる?

亡くなった人は、神様とともに空にいると考えられています。一
番の供養はお墓参りですが、献花の意味を込めて夜空に花火を打ち上げているのです。そのため、お盆がある夏に花火大会が多く開か
いされます。



今年の花火大会は、観客が密になることを避けるため、全国800カ所以上で中止となり
ました。しかし、6月1日午後8時に全国200
カ所以上で同時に花火が打ち上げられました。
これは「全国一斉悪疫退散祈願cheer upの花
火プロジェクト」で、花火師さん達が、出番
のなくなった花火をサプライズで打ち
上げてくれたのです。医リょう従事者の方
々に向けて、**青い花火**も上がりました。



江戸東京博物館
(墨田区)



両国花火資料館
(墨田区)



緒方洪庵



緒方洪庵は江戸時代の終わりに活躍した医者で、感染症とのたたかい方を変えた人です。

1810年、岡山市の武士の家に生まれるが、幼い頃から病弱で、武道のけいこができなかつたため、医者を目指す。

1836年、長崎で最先端の西洋医学を学ぶ。日本ではそれまで迷信や俗説が浸透していたが、西洋医学は人体解剖を積極的に行って病の原因を探る、科学に根柢した医学だった。

1838年、大阪に移り、開業医として働くと同時に、西洋医学を教える「適塾」という学校を開く。(福沢諭吉など、1000人以上が学んだ。)

その頃、天然痘が流行する。子どもがかかりやすく発症したら4割が死ぬという恐ろしい病。ヨーロッパでは「種痘」(天然痘のワクチン)で予防できることが分かっていたが、牛由来のワクチンのため、人々は抵抗感や反感が大きかった。

そこで、洪庵は「錦絵」を使ってワクチンの重要性を広めた。

← 赤鬼を天然痘、少年をワクチンに見立てている。



錦絵には、白い牛にまたが、た少年がやりで赤鬼を退治している場面が描かれた。他の国々ではワケチンの効果があつたことも記している。

洪庵の地道な活動により、予防接種が全国に広まり、天然痘は収まった。

しかし1854年、長崎に来たアメリカ船をきっかけにコレラが日本で流行する。激しい嘔吐と下痢の症状があり、コロッと死んでしまつたため「コロリ」と呼ばれたり、「虎狼刺」や「虎独狸」の漢字を当てられたりした。感染拡大も早く、江戸では20万人以上が亡くなつた。

コレラを退治する、衛生隊。



緒方洪庵の墓 (文京区)

多くの医者があきらめる中、洪庵は西洋のあらゆる医学書に目を通し、コレラの治りように関する案内書となる『虎狼痢治準』を書き上げる。当時有効と考へられたキニーネ(マライア)の治りよ薬だけでは不十分で、その他の対処法や自身の臨床経験も記し、情報をすべて伝えることを優先した。

その後、コレラは収束。洪庵は人々の命を救うために力を尽くしたのです。

まとめ

感想

まとめ

- [巻ごとに分かっ たこと了
- ① 疫病は原因や治りょう法の分からな い恐ろ
しい病気。疫病の流行によっ て、人々の考
え方や社会が変化した。疫病二鬼と考
② 鬼を追い払うために節分を行っ た。御霊会
おめるために御霊会あり、現在も続い
園祭の始まりであります。御霊会は祇
③ 神話にも疫病の話があり、神様は神社
まつりされて信仰されるようになった。茅の
輪くぐりなどの行事は今も行われている。
④ 有名な建物や国宝なども疫病をきっ かけに
作られたものがいくつもあ る。
⑤ 元三大師は実在した僧で、「角大師」とな
り疫病神を退散させる神として護符に描か
れている。おみくじの元祖でもある。
⑥ 辟邪神は憤怒の表情で悪神を成敗する良
神様。鍾馗は子どもの魔除けの神でもあ
また、赤は魔除けの色。
⑦ アマビエをはじめ、疫病を予言し終息も
せるといふ、いろいろな予言獣が流行した。
⑧ 江戸時代に感染症とたたかい方が変
花火を見て祈ることもあれば、その一
西洋医学によってワクチンが開発さ
れた。

〔全史の中心で、疫病の流行した時
日本が何時代か、疫病が流行した時
代がどの時代か、疫病が流行した時
命が失われ、疫病が流行した時
か疫病と祈り、疫病が流行した時
疫病と祈り、疫病が流行した時
鬼と祈り、疫病が流行した時
する神を祀り、疫病が流行した時
神を祀り、疫病が流行した時
すばらしい疫病が流行した時
で疫病が流行した時
に疫病が流行した時
収まる疫病が流行した時
そい方が大変な疫病が流行した時
たんだ緒力を尽くした疫病が流行した時
束に力を尽くした疫病が流行した時
人々の移動が多くなるほど、距離が長くなるほど、
交流が増えるほど、疫病は広がって来た新
いきました。昔から人々は見えない恐怖と
かい、たかいてい、たかいてい、たかいてい、
しい文化が生まれてい、たかいてい、たかいてい、

感想

現在、新型コロナウイルスが流行し、まだ
収束していません。昔、疫病退散のために
われれた祭りも花火も集まらずに
た。昔、今年はる密を避けて
うになりしました。

医りよが整っている現在でも不安な状況
なので、昔の人は本当は大変な思いをして
きたと思えます。疫病を、力は持た人も
いた社会も衰え、恐怖ととも生活して
見えない恐怖の中、人はただ怖がるだけ
そのよう疫病退散の願いが深刻であ
なく、豪華なものを作り、神を怒らせ
ど美しいものを作り、事をしは、苦
ぐさめる歴史、文化、習わしは、苦
人々の歴史、文化、習わしは、苦
連続だったと思えます。

不便で自由な生活をしている今だから
そ、便利で自由な生活の今だから
が分かります。よく達今
史から学びたいと思

完



高尾山に登。たら、「三密」とはもとも「三密の道」を発見し、
ました。「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
からだと「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
のこも「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
密閉も「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
大切にし「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
ていき「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
たいです。「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
です。「三密」はもとも「三密の道」を発見し、
に、本来の三

參考資料

* 参考資料

出典	著者	図書館
いっすんぼうし	松谷みよ子／フレーベル館	豊島区立 中央図書館
いなばのしろうさぎ	いもとようこ／金の星社	
鬼学	松岡義和／今人舎	
鬼が出た	大西廣／福音館書店	
季節を知る・遊ぶ・感じる 2月のえほん	長谷川康男（監修）／PHP研究所	
季節を知る・遊ぶ・感じる 7月のえほん	長谷川康男（監修）／PHP研究所	
「郷土玩具」で知る日本人の暮らしと心 2 健康を願う郷土玩具	畑野栄三、岩井宏實（監修）／ くもん出版	
こどもの行事しぜんと生活 2月のまき	かこさとし／小峰書店	
こどもの行事しぜんと生活 7月のまき	かこさとし／小峰書店	
こどものこよみしんぶん	内田かずひろ／文化出版局	
神社・お寺のふしぎ100	藤本頼生（監修）／偕成社	
神社とお寺がわかる事典	井上智勝（監修）／PHP	
せつぶんだまめまきだ	桜井信夫／教育画劇	
ならの大仏さま	加古里子／福音館書店	
「日本人」を知る本一人・心・衣・食・住 2 日本人の信仰	井上順孝（監修）／岩崎書店	
日本の祭り 4 近畿編	吉田明彦（編集）／理論社	
日本の祭り大図鑑 知れば知るほどおもしろい！ 由来・歴史・見どころがわかる	芳賀日向（監修）／PHP	
日本の祭り大図鑑 みたい！しりたい！しらべたい！ 1 病やわざわいをはらう祭り	松尾恒一／ミネルヴァ書房	
日本の祭りがまるごとわかる本 春夏秋冬「四季の祭り」図鑑	芳賀日向（監修）／晋遊舎ムック	
ビジュアル博物館 感染症	ブライアン・ウォード（著） ロブ・ドゥサーレ（監修） 唐木利朗（日本語版監修）／同朋舎	
ももたろう	松居直／福音館書店	
やまたのおろち	羽仁進／岩崎書店	
現地の人に聞く！日光修学旅行ガイド	日光市観光協会（監修）／ポプラ社	豊成小図書館

出典	著者	
今だから読みたい 大人の昔話	末松敏樹（編集）／三栄	私物
陰陽五行でわかる日本のならわし	長田なお／淡交社	
絵本 地獄	宮次男（監修）／風濤社	
神さまに選ばれた動物図鑑	長谷里美（編集）／神宮館	
かみさまのおはなし	藤田ミツ／講談社	
元三大師良源	福井智英、吉田慈敬／サンライズ出版	
感染症の近代史	内海孝／山川出版社	
決定版 心をそだてる 松谷みよ子の日本の神話	松谷みよ子／講談社	
決定版 日本の仏像200 一冊ですべてがわかる！	薬師寺君子／西東社	
幸せ運ぶ！日本神社めぐり	平藤喜久子（講師）／NHK出版	
人類は「パンデミック」をどう生き延びたか	島崎晋／青春文庫	
大迫力！日本の神々大百科	戸部民夫（監修）／西東社	
大迫力！日本の妖怪大百科	山口敏太郎／西東社	
都道府県別 にっぽんオニ図鑑	山崎敬子／じゃこめてい出版	
日本史探偵コナン 3 飛鳥時代	青山剛昌（原作）／小学館	
日本史探偵コナン 4 奈良時代	青山剛昌（原作）／小学館	
日本史探偵コナン 5 平安時代	青山剛昌（原作）／小学館	
日本伝奇伝説大事典	乾克巳、小池正胤、志村有弘、 高橋貢、鳥越文蔵（編者）／角川書店	
福を呼ぶ！ニッポン神社めぐり	平藤喜久子（講師）／NHK出版	
へんてこ！すごいぞ！日本の宝もの こども国宝ずかん	とに〜／小学館	
妖怪ビジュアル大図鑑	水木しげる／講談社	
週刊 ニッポンの国宝100 5号 三十三間堂／洛中洛外図屏風 上杉本 7号 法隆寺 救世観音／雪松図屏風 15号 巖島神社／地獄草紙 20号 東大寺大仏／平家納経 25号 東寺 両界曼荼羅／法隆寺 伽藍 34号 四天王寺扇面法華経冊子／法隆寺 釈迦三尊像 38号 辟邪絵／色絵雉香炉 50号 深大寺釈迦如来／大浦天主堂	小学館	

インターネット

朝日新聞デジタル	https://www.asahi.com/
巖島神社	http://www.itsukushimajinja.jp/
出雲大社	http://www.izumooyashiro.or.jp/
板橋宿 多ぐち	https://ameblo.jp/taguchi-itabashi
板橋区公式ホームページ	https://www.city.itabashi.tokyo.jp/
大國魂神社	https://www.ookunitamajinja.or.jp/
大神神社（三輪明神 大神神社）	http://oomiwa.or.jp/
お宮キッズ	https://www.omiyakids.com/
寛永寺	http://kaneiji.jp/
寛永寺開山堂両大師	http://kaisando.kaneiji.jp/
神田明神（神田神社）	https://www.kandamyoujin.or.jp/
京都新聞	https://www.kyoto-np.co.jp/
京都大学貴重資料デジタルアーカイブ	https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/
鞍馬寺	https://www.kuramadera.or.jp/
國學院大學メディア	https://www.kokugakuin.ac.jp/
国立歴史民俗博物館	https://www.rekihaku.ac.jp/
金比羅宮	http://www.konpira.or.jp/
佐賀新聞LIVE	https://www.saga-s.co.jp/
時事ドットコム	https://www.jiji.com/
不忍池辯天堂	http://bentendo.kaneiji.jp/
神社本庁	https://www.jinjahoncho.or.jp/
神泉苑	http://www.shinsen.org/
深大寺	https://www.jindaiji.or.jp/
すみだ北斎美術館	https://hokusai-museum.jp/
晴明神社	https://www.seimeijinja.jp/
大正大学	https://www.tais.ac.jp/
デジタルアーカイブ福井	https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/
東京国立博物館	https://www.tnm.jp/
道後温泉	https://dogo.jp/
東寺	https://toji.or.jp/
東大寺	http://www.todaiji.or.jp/
奈良国立博物館	https://www.narahaku.go.jp/
日光山輪王寺	https://www.rinnoji.or.jp/
日光二荒山神社	http://www.futarasan.jp/
日本経済新聞	https://r.nikkei.com/
白兔神社	https://hakutojinja.jp/
法隆寺	http://www.horyuji.or.jp/
まんが日本昔話～データベース～	http://nihon.shoukokuai.com/
水澤観世音（五徳山水澤観世音）	https://mizusawakannon.or.jp/
八坂神社	http://www.yasaka-jinja.or.jp/
安井金比羅宮	http://www.yasui-konpiragu.or.jp/
山梨県立博物館 かいじあむ	http://www.museum.pref.yamanashi.jp/

* 資料のコピーは、参考資料に載っているものを使用しました。

* 写真は、すべて母が撮影しました。

以上